ユネスコ研修　最終報告書

大阪大学大学院人間科学研究科
共生学系国際協力学
博士後期課程 2 年　宮村侑樹



写真 1 ユネスコ・ニューデリー事務所のオフィスにて

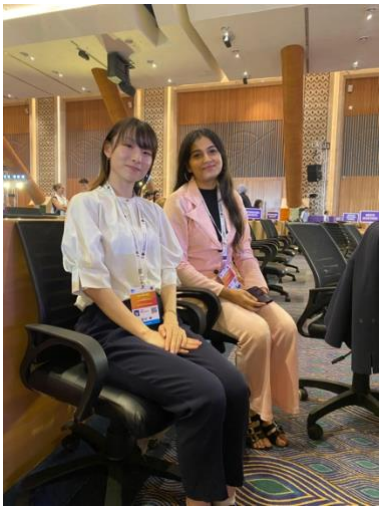


写真 2 同じインターン生の友人と世界遺産委員会にて

♦　はじめに

文部科学省の「ユネスコ研修プログラム」の研修生として、2024 年 6 月 10 日から 2024 年 12 月 10 日までの 6 ヶ月間にわたって、ユネスコ・ニューデリー事務所（インド共和国）にて研修を受けました。本記事ではその研修内容や生活の様子の一部を紹介させていただきます。

私の研修先であるユネスコ・ニューデリー事務所は、主に教育や文化、自然科学など分野ごとに 8 つのセクターに分かれています。その中でも私は、教育セクター（Education Sector）と人文・社会科学セクター（Social and Human Sciences Sector）に所属しながら、主に教育セクターのプロジェクトに従事していました。配属先は、応募書類提出時に研修を受けたい分野と事務所の希望を出したのちに、その時点で希望する事務所で進行中のプロジェクトとのマッチングを経て決まります。私の場合、研修前にマッチングしたプロジェクトは人文・社会科学セクターのプロジェクトでしたが、研修開始後のミーティングで、私の専門が教育にあることや教育分野での経験が多いことから、人文・社会科学セクターと教育セクター両方に所属しながら主に教育セクターのプロジェクトに従事することになりました。このように私の場合は、私自身の専門性や経験に合わせて柔軟に対応していただきました。

教育セクターでは、ブータン、インド、モルディブ、スリランカの 4 つの加盟国に対する能力開発、政策助言、技術支援を通じて、質の高い公平な教育と、すべての人のための生涯学習の機会を促進するために活動しています。教育セクターでは、具体的に 4 カ国の教育の現状を把握し、SDG4 やグローバル教育 2030 アジェンダ、そして、ユネス

コのフレームワークをそれぞれの国の文脈に当てはめながら、教育の改善に向けて政策提言を行ったり、ワークショップなどのイベントを開催したり、実際に開発したプログラムを学校現場で実践したりしています。

その中でも、主に私は教育セクターの中心的なプロジェクトである「State of the Education Report for India (SOER) 2024」プロジェクトに従事することになりました。このプロジェクトはインド国内の教育についての報告書をまとめ、最後に政策提言するというプロジェクトで、2019 年から 6 年間続いており、デジタル技術や環境教育など毎年異なるテーマが設定されています。今年のテーマは、「文化芸術教育（Culture and Arts Education）」でした。2024 年 2 月にアラブ首長国連邦の首都アブダビで「文化と芸術教育に関するユネスコ国際会議 2024（World Conference on Culture and Arts Education 2024）」が開催され、新たなフレームワーク「UNESCO Framework for Culture and Arts Education」が採択されたことや、インドの新しい「国家教育政策 2020（National Education Policy 2020）」でもアーツインテグレーション（Art-Integration）や多言語教育が推進されていることからこのテーマが選ばれたようです。以下ではこの SOER 2024 プロジェクトの業務を紹介します。

- State of the Education Report for India 2024

SOER 2024 では、インドの文化芸術教育の現状を把握し、ユネスコの新たなフレームワークである「UNESCO Framework for Culture and Arts Education」をインドの文脈に当てはめることでインドにおける文化芸術教育の課題を浮き彫りにし、レポートの形で政策提言を行いました。そのため、私たちの業務としては、レポートを執筆するのではなく、レポート作成をコーディネートすることです。レポートを実際に執筆する文化芸術教育の専門家のグループとともに二人三脚でレポートを完成させました。具体的には、レポートの編集委員会の組織や運営、当該テーマについての文献調査、NGO や学校における現地調査、インド連邦政府の各省宛の書簡文等のドラフト作成から外部委託企業の選定業務まで政策提言のためのレポート作成に関わる業務を幅広く担当させてもらいました。

特に印象に残った業務は、カルナータカ州とアッサム州でのフィールドワークです。このフィールドワークはレポートの内容についてのサマリービデオに使用するインタビューや、草の根レベルで行われている文化芸術教育の実践について取材するための調査でした。フィールドワークはインドの多様な文化的社会的背景を描き出すために、西ベンガル州、カルナータカ州、アッサム州、そしてデリー首都直轄領にて行われました。そのうちのカルナータカ州とアッサム州の調査に同行しました。フィールドワークでは、各地域で先進的な実践を行っている学校や NGO を訪問し、教員や NGO の創設者、そして、生徒へのインタビューを通して、インドの文化芸術教育に関する事例を切り取りました。実際に現場レベルで行われている実践は、私にとっても大きな学びになったと同時に、先進的な実践をしている NGO や学校とのコネクションができたことは今後の自分の研究にとっても貴重な繋がりになってくると思います。このように現場レベルでの活動にも携わることができるのは、地域事務所の大きな特徴だと思います。

SOER プロジェクトでは、レポートの完成後にラウンチイベントとしてレポートの作成に関わった人びとやユネスコの関係者、そしてインド連邦政府の各省庁の関係者等を招待し、レポートで得た結果やサマリービデオを放映します。SOER 2024 のイベントは

12 月 17 日に行われました。私の研修は 12 月 10 日までだったため、最後はオンラインでの参加になりましたが、自分が同行し関わった映像やインタビューが、映像制作会社による編集を経て素敵なサマリービデオになって放映されるのをみた時は、大きな達成感と感動を味わうことができました。最終的にサマリービデオとして編集されているものは、撮影した映像の中でも一部でしたが、その映像を見るたびに、調査で見聞きした文化芸術教育の実践などが思い起こされ、ぜひ多くの人に知ってほしいと思いました。イベントの様子やレポートはユネスコ・ニューデリ事務所の公式ウェブページで公開されていますので、ぜひご覧ください。

- その他のプロジェクト

SOER プロジェクト以外にも半年間で様々プロジェクトに関わることができました。その中のいくつかの経験を以下にて共有したいと思います。毎年 10 月 5 日に祝われる世界教師デーの啓発イベントとして、ユネスコ・ニューデリー事務所で企画し開催したオンラインイベントにも関わりました。このイベントでは南アジア 6 カ国（バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、スリランカ）それぞれの国からの学校教員の代表がオンライン上で集まり、デジタルテクノロジーと教育、気候変動と教育という 2 つのテーマについて、それぞれの実践や困難を共有し合い、その課題を解決するには何が必要なのかを議論しました。そのイベントの補助として私は、企画書の作成からイベントの運営補助、そしてその議論の内容をまとめた報告書の作成を行いました。

また、11 月に開かれた Regional Conference on educational planning in Asia-Pacific の運営補助も行いました。この国際会議はアジア太平洋地域各国の教育省や教育関連機関の代表が集まりコロナ後の教育計画計画について議論することを目的とした会議です。南アジア 6 カ国からの参加者を把握するために、どの国から何人そして、誰が参加するのかなど参加者リストの作成などを行いました。

さらに、自身の所属するセクター以外のイベントにも参加することができました。7 月 21 日から 31 日にかけてインドが初めてホストとなって開かれた第 46 回世界遺産委員会（World Heritage Committee 2024）では、サイドイベントや開会式に参加する機会をいただき、国際会議の規模感や雰囲気を肌身で感じることができました。他にもインドの各州の文化や観光地を紹介するブースなどもあり、インドへの理解を深めることもできました。

- 同僚や上司との関わり

ユネスコ研修プログラムの魅力は以上に紹介した業務内容だけにとどまりません。天候や大気汚染などにより在宅に変わる場合もありますが、週のほとんどをユネスコ・ニューデリー事務所のオフィスで過ごすことになるので、そこで出会った友人や同僚、上司との関わりは研修後も続く大変貴重な繋がりになったと感じています。同僚や上司とは、オフィスの中にある食堂で一緒に昼食をとったり、オフィスの近くにあるレストランまで行ってランチをしたり、仕事以外でも関わりを持つことができました。休日には、同じくユネスコニューデリー事務所でインターンをしている友人と共にインドの若者に人気の街へ遊びに行ったり、インドの祭典の際にはイベントに一緒に参加したりと仕事以外にも大変充実した時間を過ごすことができました。

♦　おわりに

この研修を通して学んだこととして一番大きなことは、他の国際機関と比較したときにユネスコの特徴は何であり、したがってユネスコ職員になるためには何を自分の強みとして培っていけば良いのかということをプロジェクトに関わることを通して体得できたことだと感じています。また、インドの教育制度の中心である連邦政府とともに教育政策の指針に沿って仕事ができ、ユネスコという視点からインド政府が教育を通して目指す先を見ることができたことも大変貴重な経験だったと思います。この半年間の経験は、今後の私の進路にとっても私の研究にとっても大変意義のある貴重な経験でした。